

REPORT

REPORT

海外派遣レポート

次の「リーダー」のために

青木 悠馬

右の写真は、ウォールナッツグローヴという町の写真です。この場所は戦前まで日本人が多く住むの町として有名でした。しかし、戦後は様々な要因が重なり、今ではかつての面影が残ってはいないものの、フィリピンやメキシコ系の人々がよく住む町となっていました。



私は、なんとか昔の日本人が住んでいた町の面影が見たいと思いながら歩いていると、洋風の家の中にぼろぼろの壁が！！これは昔の日本人が住んでいた頃の家の壁だそうです。私はこれを見て少しうれしくなりました。状態から見るともう長くはもちません。ですが、ここに日本人が多く住む町が確かにあったと確認できてうれしかったです。

他にもホストファミリーと食べたチーズが大きすぎるハンバーガーやサクラメント川の見える場所にあるオールドサクラメントなど、ホストファミリーとの思い出はたくさんあります。



～最後に～

しかし、これらはすべて過去の出来事です。今の私はアメリカではなく日本にいます。そこで私は今の自分に何ができるか考えました。今の私に何ができるか考え、私は「この事業を通じて愛西市に住んでいる人に愛西市の事やアメリカと愛西市のつながりを知ってもらおう事が、今回アメリカに派遣させてもらった恩を返す唯一の方法だと思います。これからこの事業の事をもっと知ってもらい、愛西市のリーダーをたくさん生んでほしいです。そして、私も愛西市から出ようが出来いが、愛西市の代表として行かせてもらったという誇りを持って生きていきます。

楽しかった思い出

朝倉 綾子

☆ホームステイ！！☆

一番心に残っていることは、ホームステイをしたことです。ホームステイでは、ホストファミリーにとっても親切にしていただき、とても楽しい時間を過ごすことができました。ホームステイ先には、ジェイミーという私よりも1歳上の女の子がいて、お家の中の分からないところなどいろいろ教えてくれました。

私たちは、ショッピングセンターや湖に連れていってもらったり、サッカーの試合を見せてもらったりと、いろいろなことを体験しました。その中で、アメリカ人の人柄の良さや、アメリカの文化を知ることができました。最後のお別れはとてもつらかったけど、とても充実したホームステイになり、ほんとによかったです(^)ホストファミリーのみなさんにもう一度会いたいです(^o^)



☆スタンフォード大学☆

5日目には、スタンフォード大学に行きました。とても敷地が広く、びっくりしました。大学には大きな講堂がありました。そこではスタンフォード大学出身の男女だけが結婚式を挙げられるそうです。レンガ造りのかわいい建物がたくさんあって、とても景色がきれいでした。将来スタンフォード大学に入れるようにがんばります(笑)



1週間、とても内容の濃いものになりました。この事業に参加してほんとによかったです。またアメリカ行きたいです(*^_^*)



忘れられない思い出

伊藤 渚希

僕は、この事業を通してたくさん貴重な体験をしました。初めてのアメリカにワクワクするのはもちろん不安もありました。現地の文化にふれて、英語をたくさん使い、充実した一週間でした。

～全米日系人博物館～

この博物館では、日本人移民の歴史について学びました。日系人は、太平洋戦争中に強制収容所に入れられていたことを知り、驚きました。当時の日系人の苦労や努力について学びました。



～ホームステイ・食文化～

ホームステイでは、1日目は Yamauchi 夫妻に、2日目は Mizushima 夫妻にお世話になりました。Yamauchi さんのお宅には、大きなプールがあり泳ぎました。Mizushima さんとは、一緒にサイクリングに行き、サクラメントの自然をたくさん見ることができました。また、ハンバーガー屋さんにも連れていってもらい大きなハンバーガーを食べました。ホームステイではたくさん英語を使い、コミュニケーションをとりました。スーパーマーケットにも連れていってもらい、アメリカの文化にたくさんふれることができました。本当にありがとうございました。



～最後に～

この事業を通して僕は、日本とは違う文化にふれて、たくさん英語を使い、現地の人と交流しました。なかなか思うように英語を話せなかったけれど、一生懸命に僕たちと話をしてくれた Yamauchi さんや Mizushima さんに本当に感謝しています。ありがとうございました。



アメリカでの思い出

犬飼 南菜

私の心に残ったことをまとめました。

☆ホームステイ

私のホストファミリーの家にはプールや大きなトランポリンがあり、土足で中に入った。娘の Jamie は、日本のアニメが好きで、部屋の中には私の知っているキャラクターのポスターなどがあり、初日の夜は、アニメを見てすごした。みんなフレンドリーでたくさん話をしたり、いろいろなものを見せてもらった。



2日目はショッピングとサッカーの試合を観につれていってもらった。驚いたのは、マネキンでさえ太っていたということで、アメリカらしさを感じた。3日目にはタホ湖という湖につれていってもらった。海のようにきれいで、夏なのにとても冷たかった。たくさん泳いでヘトヘトになったけど、とても楽しかった。

中身のつまったとてもたのしい3日間だった。Thank you !

☆サンフランシスコ

思っていたよりも寒いっ！けど、いろいろなところをまわって楽しい1日だった。

- ・フィッシャーマンズワーフ

たくさんおみやげを買えた。すてきなお店がたくさんあった。クラムチャウダーがとてもあたたかくて、おいしかった。

- ・ゴールデンゲートブリッジ

とても大きかった。橋の上からの景色はとてもきれいだった。自転車で橋を渡っている人がいっぱいいた。風が強かった。

- ・スタンフォード大学

見つけられると幸せになれるハート型の木をさがしたり、スタンフォードのお店でショッピングしたりした。校舎とかも見学できてよかった。

- ・intel

インテルの歴史やコンピュータについて学んだ。体験型で学ぶものが多く、おもしろかった。



☆まとめ

1週間の間にたくさんの体験ができ、とても楽しかった。積極的に英語が使えて、それが通じたこともあって、自信になった。この経験を通してアメリカについて知れたし、また、日本についても前よりもよく知れたと思います。他の国にも行ってみたいと思ったし、アメリカにも再び行きたい。この体験が将来に生きるように、さらに勉強していきたい。

国際交流事業を終えて

大山 璃紗

私はこの国際交流事業で 1 日目に行った全米日系人博物館が一番印象に残っています。移民先での日本人の差別や、収容所に強制的に入れられていたことなど、こんなにもひどいことが起きていたことを初めて知りました。特に収容所は壁に隙間が空いていてそんなところに何も悪いことをしていない人が強制的に入れられたことに衝撃を受けました。また、戦争がどれほど悲惨なものかを改めて感じ、二度と起こしてはいけないと思いました。

ホームステイは充実した 3 日間になりました。不安はありましたが、ホストファミリーの Judy さんがとても優しくかったので、すぐに不安はなくなりました。ホームステイ初日には、娘さんの家に行って夕食をごちそうになりました。外にあるグリルで焼いたチキンや手作りの桃のケーキはとてもおいしかったです。2 日目はハンバーガーを食べ、アメリカのサイズの大きさに驚きました。食後には、話をして、盛り上がりました。3 日目は、カヤックをしたり、量り売りのアイスクリーム屋さんに行ったり日本で経験したことのないことを体験できました。愛知県人会の皆さんとの交流レセプションでは、二人羽織などの私たちの出し物を楽しんでもらうことができ良かったです。ホームステイはたった 3 日間でしたが、本当に素晴らしい出会いがあり嬉しかったです。



5 日目はサンフランシスコに行きました。フィッシャーマンズワーフでは、とても大きなクラムチャウダーを食べ、その後スタンフォード大学やゴールデンゲートブリッジの見学に行きました。実際に訪れてみると想像していたよりも大学の敷地は広く、橋は長かったので、大変驚きました。



今回の国際交流事業で、アメリカと日本の違いを数多く学ぶことができ、また、日本の文化がアメリカの様々な地域で親しまれていることも知ることができました。他にも現地に行かないと分からないことをたくさん学ぶことができました。これらの経験を将来に活かしていきたいです。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

変わるきっかけ

神田 さくら

小さな窓からのぞくアメリカの地は広大で、私は息をのんだ。それと同時に、「これからどんな経験ができるのだろう」と期待で胸が高鳴った。



飛行機から降りて一番に感じたことは、日本との空気の違いだ。8月中旬のあの重く湿った空気ではなかった。カラッと乾いていた。目に映るもの全てが新鮮で、私はアメリカへ来たことを実感した。

空港から出たあとロサンゼルス市内を歩いていて思ったことは、バリアフリーが進んでいるということだ。横断歩道にある押しボタンを押すと振動し、信号が変わったときも同様に振動した。これは、視覚に障がいがある方への工夫だ。また、車いすの方が1人でも動きやすいように、町の段差は所々スロープになっていた。その一方で、日本の実態はどうかと疑問に思った。

2日目、ホストファミリーの Judy さんと対面した。ホームステイは今回の事業で一番楽しみにしていたことだった。最初は緊張で固まっていた私だが、笑顔で話しかけてくれた Judy さんのおかげで、緊張は一気に吹き飛んだ。これからは楽しみで仕方なかった。

Judy さんの家には屏風、太鼓、畳など「和」を感じさせるものがたくさんあった。私は遠く離れたアメリカでも日本のものが愛されていると知り、とても嬉しかった。Judy さんは、私たちをカヤックや1ドルショップに連れて行って下さった。カヤックでは時折かかる水が心地よく、最高だった。1ドルショップには興味をそそられる商品がたくさん並んでいた。本当に楽しかった。

サクラメント郊外にある河下仏教会を訪れたときには感動した。姿、形は違うものの、お経の本が置いてあったのだ。寺である私の家で毎日みるものと同じ内容だった。たとえ生活する環境が異なっても、物事の本質や人々の心は変わらない。そして、遠い日本とも繋がっている。そう感じた瞬間だった。

他にも貴重な経験をたくさんした。出会った方々が温かく接して下さったこと、日系の方の並々ならぬ努力や苦勞のおかげで私たちの今があること…。など、可能ならば全て書きたいくらいだ。アメリカでの出来事は今でも鮮明に思い出すことができる。私は今回の青少年国際交流事業で少し変わった気がする。実際に海外に行き、その地の空気を吸い、自分の目で見て、話を聞き、肌で感じる。そうしていくうちに自分の将来をあまり意識していなかった私に変化があった。「将来は海外で働いてみたい」そう思うようになった。しかし、海外で働くのは簡単なことではないだろう。たくさんの壁があるだろう。だが、きっとそれらは私に刺激を与え、成長の糧となってくれるはずだ。私は未来へ羽ばたくために、しっかりと今後を見据えて、今を歩いていきたい。



可能性広がるアメリカ

杉村 妃菜

私はこのアメリカの事業を通して、たくさん学び、たくさん感じ、そしてたくさん挑戦することができました。アメリカで周った全ての場所が、アメリカにいた時間全てが、私にとってとても新鮮でした。私は初めての渡米だったので、驚きで世界がひっくり返ったような思いでしたが、その中でも私は、ホームステイでの経験が印象強く心に残っています。

～ホストファミリーと対面～

私は英語がとても好きですが、一度も自分から英語で話しかけたことがありませんでした。もしホストファミリーに自分の英語が通じなかったら……。私はそんな不安でいっぱいでした。しかし、心配は無用でした。私のホストファミリーは日本語がしゃべれないようでしたが、私がしゃべる片言の英語にも、熱心に耳を傾けてくれました。



そして、8歳の Ella ちゃんは私が思っていたよりも明るく、積極的に話しかけてくれました。そして私が日本から持ってきたお土産も興味津々で見てくださいました。そのおかげで一日目からとても打ち解けることができました。

～ホストファミリーと一日過ごして～

ホストファミリーは私達をタホ湖という湖に連れていってくれました。びっくりしました。とてもとても広いのです。私は日本最大の湖である、琵琶湖を見に行ったことがあるのですが、その何倍も大きいように見えました。アメリカの広大さを感じた瞬間でした。私達は最初に泳ぎました。そしてホストファミリーはカヌーもやらせてくれました。Ella ちゃんと私達三人でふらつきながらも楽しくやることができました。私は時間が経つのがとてもはやく感じました。それくらいとても有意義で充実した一日を過ごすことができました。私はこの一日でホストファミリーの優しさを知ることができました。ホストファミリーの太陽にも負けないような明るさを感じることができました。私はそんなホストファミリーのおかげで自分の殻を破ってたくさん挑戦することができました。自分のことや家族のことを自分から話しかけることもできました。ホストファミリーの家族の一員になれた、そんな気分でした。

～まとめ～

私はこの事業でホストファミリーとのたくさんの思い出や英語の勉強以外にも全米日系人博物館で日系人の歴史を学んだりゴールデンゲートブリッジの巨大さを感じたりすることができました。そのほかにもアメリカの街並や食事など、普段の生活の感覚、文化も日本と違うところがあるんだなと感じました。私はこの事業で本当に多くの人とふれあうことができました。初めてのアメリカで驚きの連続でした。でも、アメリカはとても素敵な国で私の将来の夢の幅が海外にまで広まったような気がします。この思い出を胸にこれからもたくさんのことに進んで挑戦したいと思います。ありがとうございました！



思い出の一週間

杉山 快努

僕は、この事業を通してたくさんの事を学ぶことができ、たくさんの思い出をつくることができました。

ロサンゼルス

ロサンゼルスでは、最初に行ったデパートの大きさに驚きを感じました。中も日本とは違った雰囲気味わうことができました。そこでの昼食では、アメリカで初めての買い物をしました。あまりうまくできなかったが、無事昼食を買うことができてよかったです。また、その昼食は大きく、食べることができませんでした。他にもリトルトーキョーで大仏などがあったことに驚きを感じたり、CoCo 壺でカレーを食べたりしてとても有意義な時間を過ごすことができました。



ホームステイ

ホームステイでは、NorikoさんとGeorgeさんの家族へ行きました。はじめての事だったのでとても緊張しました。しかし、NorikoさんやGeorgeさんがとても優しくしてくれたのでとても楽しく生活できました。僕たちは、大きなデパートに行ったり、1\$ショップや市場などに行きました。そこではアメリカと日本の違いなどをよく知ることができました。また、夕食の時に食べたスベアリブやラザニアの大きさやおいしさは今でも心に残っています。夜には楽しいゲームをして遊びました。



ホームステイが終わる時には「もう終わり？」とってしまうぐらい楽しい時間を過ごしました。この経験をすることができて本当によかったです。

サンフランシスコ

僕は、サンフランシスコの中で特にフィッシャーマンズワーフが一番心に残っています。フィッシャーマンズワーフは、いろいろなお店、レストラン、メリーゴーランドなどもあり、まさに遊園地のようなものでした。昼食に食べたクラムチャウダーはとても大きくおいしかったけれど、食べきれませんでした。



他にもサンフランシスコでは、上からの景色がすごいゴールデンゲートブリッジにいたり、大学やインテル博物館などに行っても楽しく、長いようでとても短い1日でした。

今回の国際交流事業で、愛西市とサクラメントの関係も知ることができ、アメリカの文化も知ることができて、とてもよい経験になりました。この事を通してここで終わらずこれからにつなげていきたいです。

国際交流事業を通して

瀧本 歩花

アメリカに着いて1日目、まずロサンゼルス空港の広さに驚きました。中部国際空港の比にならないくらい広く、それを見て、アメリカについたと実感しました。空港を出てバスに乗ると、電柱がなくて、無駄のないスマートな道路、立ち並んでいる大きな建物に驚きを隠せませんでした。全米日系人博物館では、日系人が戦争によって、大変な苦勞をしていたことを学びました。改めて、戦争はどんな理由があっても、してはいけないなと思いました。

2日目、3日目、4日目はサクラメントでのホームステイを体験しました。最初は不安でいっぱいだったけれど、過ごしていくうちにその不安は消え去りました。自分たちの家族の話をしたり、一緒に「UNO」をしたり、とても有意義な時間を過ごすことができました。

4日目では、乗馬体験をさせていただいたり、オールドサクラメントに連れて行ってもらったりして楽しかったです。夜のレセプションでは、二人羽織で笑ってもらったり、折り紙では「ビューティフル」と言ってもらえて、忘れられない思い出になりました。

5日目はサンフランシスコでたくさんの観光地に行きました。フィッシャーマンズワーフでは、お土産をたくさん買って、クラムチャウダーを食べました。クラムチャウダーは中身をくりぬいたパンの中に入れてとても美味しかったです。次にゴールデンゲートブリッジに行き、スタンフォード大学も行きました。ゴールデンゲートブリッジは、とても大きくて、寒さが吹き飛ばすくらい眺めにきれいでした。スタンフォード大学では、自然にできたハートの木々があって、神秘的だなと思いました。また、建物に描かれている絵のデザインが美しく、びっくりしました。

この愛西市青少年国際交流事業を通して、アメリカの食べ物大きさ、技術の発展、広大な農地と建物、異国の文化の取り入れ、英語の重要さなどたくさんのことを学ぶことができ、とても充実した一週間になりました。それはこの事業に関わったすべての方のおかげです。本当にありがとうございました。



驚きがたくさんあったアメリカ

水谷 豊大

僕は、先輩がこの事業に行っているのを見て、僕も参加しよう決めました。最初は全然、入国審査やホームステイ、レセプションパーティーのことで頭がいっぱいであまり楽しむ余裕はありませんでした。しかし、アメリカに着いて過ごしていくなかで、不安な気持ちはうすれていき、ホームステイの頃にはほとんど不安はありませんでした。



サクラメントの第一印象は、まず気温がよく似ていて、なんと37℃もありました。地形も愛西市に似ており、平地に大きな川が2つ流れて、昔は洪水に苦しんでいたことをきいてそっくりだと思いました。そして、ロサンゼルスもとにかく日本車が多く、トヨタ車がたくさん走っていました。

ホストファミリーの皆さんには温かく歓迎してくださいました。家庭菜園を見せてもらったり、ショッピングモールやファーマーズマーケットにつれていってもらいました。いろいろ体験させていただいた中で心に残っているのは、食事と一緒にしたカードゲームです。アメリカンな食べ物をたくさん食べてとてもおいしかったです。4人でやったゲームは時間が気にならないくらい熱中してしまいました。今回、目標だった自分の英会話力を試してみて、まだまだということが身をもって分かりました。次回はもっと自分の英会話力を磨いてまたアメリカに出なおしたいです。



☆おすすめのアメリカンフード☆

1. (ホームステイで食べた)スペアリフ
2. (ホームステイで食べた)ラザニア
3. クラムチャウダー

☆おすすめしたいアメリカスポット☆

1. フィッシャーマンズワーフ
2. ゴールデンゲートブリッジ
3. カリフォルニア州議会議事堂



アメリカで学んだこと

山田 楓

全米日系人博物館

私が日系人の歴史などを聞いて、一番驚いたことは、太平洋戦争中、日系人というだけで収容所に入れられて、犯罪者と同じような扱いをされていたことです。それでもアメリカのために戦って政治家になったダニエル・イノウエのような日系人のおかげで今の日本があるので、感謝したいと思いました。



ホームステイ



最初にホストファミリーと面会した時、日本語が話せないと分かってすごく心配になりました。案の定、車の中でたくさん話しかけて下さったけれど、よく分からなくて、ちゃんと過ごせるかもっと心配になりました。でも、翻訳のアプリを使ったりして、伝えようとしてくれて、話ができるようになりました。私がホームステイで学んだことは、英語を話そうとするのではなく、単語でも伝えようとするのが大切だということです。たくさん遊んだり、出かけたりして、一生忘れない良い思い出になりました。

ゴールデンゲートブリッジ

ゴールデンゲートブリッジはすごく有名な場所だったので、実際に見ることができてうれしかったです。当日は曇っていて、一番上の方まで見ることはできなくて少し残念でした。私が一番驚いたことは気温です。事前にサンフランシスコは寒いと聞いていたけれど、それでもあまりの寒さにびっくりしました。アメリカの中でもそんなに気温の差があることを知らなかったので、アメリカの広さを実感しました。



研修を終えて



私は、アメリカで実際の英語に触れたり、アメリカの文化や生活についてなどたくさんのことを学んだり、とてもいい経験になりました。しかし、私にとっての一番の収穫は日本の良さに気づけたことです。日本は治安もいいし、アメリカの人の中には、私達が日本人だと分かると、うれしそうに日本語で話してくれる人もいたりして日本は世界にも通用する国なんだと教えられました。なので、これからは自分の国にほこりを持ち、この経験を将来に生かしていきたいです。本当にありがとうございました。

アメリカで学んだこと

横野 叶芽

私はこの事業を通してたくさんのことを学びました。日本とはちがう文化に触れ、新しい出会いや発見をすることができました。

ホームステイ

英語がちゃんと話せるかとても心配でした。ですが、習った文法を使ったり、ホストファミリーの方々も私たちが理解しやすいように話して下さい、コミュニケーションを取ることができました。ホストファミリーのBillさん、Vickiさんには、とてもお世話になりました。生まれて初めて乗馬をさせてもらったり、ショッピングにつれていってもらったり、色々な食べ物屋さんにつれていってもらったりしました。2人ともとても優しく、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



フィッシャーマンズワーフ

たくさんのかわいいお店やおもしろいお店がありました。メリーゴーランドなどもあって遊園地みたいでした。野生のアシカもみることができました。買物でお会計のとき、ハプニングがあったりしました。私は食べられませんでしたが、クラムチャウダーがすごく大きくておどろきました。とっても楽しかったです。



ゴールデンゲートブリッジ

すごく寒かったです。風もつよく体もっていかれそうでした。ゴールデンゲートブリッジはとても大きく存在感がありました。写真でみるのと実際にみるのは全然ちがいました。一生忘れられない光景です。



初めての外国で不安もありましたが、楽しい友達と周りの温かい人たちに支えられ、最高の思い出になりました。この事業で学んだことを生かし、感謝の気持ちを忘れず、これから自分の道を進んでいきたいです。

You just take one step forward.

原 さやか

「一步踏み出せばいいんだよ。じゃなきゃ、人生はまるで開けっ放しの鳥かごだ。」

ある友人の言葉です。

いつでも出られる状態にあるのに、そこから出られない。というよりは出ようとしないう人も少なくないでしょう。

今の生活で満足。失敗したら嫌だ。何かを失いたくない。新しい環境や変化が怖い。

「内向き志向の若者たち」はきっとそう思っているのかもしれない。

しかし、狭い世界に縛られず、「OK。試しにやってみよう！行ってみよう！」と主体的に行動することで見聞できる世界は大きく変わります。

今回、「行ってみよう！」という思いを行動に移した 12 名の学生団員には、挑戦したからこそ見えた新しい「気づき」がたくさんありました。

事前学習で史実を学ぶことで、経験がより豊かになり、もっと知りたいと好奇心を強めた者。何もかも便利なのがベストではない、我慢することで磨かれる感性があることを知った者。慣れないライフスタイルに適応しようとする中で、今まで以上に肉体的にも精神的にもタフになった者。日本そして地元のよさを再認識し、「日本人」であるというアイデンティティに誇りを持ち、また、海外において「日本人」であることの責任感を感じた者。今まで日本でなら当たり前だと思っていたことが当たり前ではないことに気づき、恵まれた環境にいることに感謝できた者。「ユーモア」という心を和ませる「思いやり」は世界共通だと感じた者。夢への可能性を広げ、実現のために今やるべきことを明確にした者。失敗なんて大したことはない、恥ずかしがらず自分を表現することで「こんな自分もいたんだ。」と新しい一面に気づき、自己肯定感を強めた者。「アメリカって…らしい。」のような誰かから聞いたイメージや大勢に惑わされず、自身の目で見て世界を知り、関心を強めた者。感謝の気持ちをどこでも誰に対しても伝えることの大切さを感じた者。どちらがよいとかではなく、自分とは異なる様々な価値観に触れ、多様性や違いに気づき、尊重することを学んだ者。英語が伝わらず悔しい思いを経験し、それにより語学学習へのさらなるモチベーションを高めた者。コミュニケーションには、スキルも大事だが、「あなたに伝えたい。」という誠実な思いがあってこそだと感じた者…。

短期間の海外研修はいわゆる「カルチャーショックの第一段階」で、すべてが新鮮で輝いて見え、異文化の表面的な理解にとどまりがちであるといわれます。しかし、青年の多感な時期に海外を体験し、本事業の目的でもある「多文化共生の意識の醸成を図る」礎作りとしての様々な「気づき」を得ることができたこのプログラムの意義は大きいでしょう。

国や世代を超えてつながる絆は、長年にわたる日系人の方々のご協力と若者たちへの期待、愛西市の若者たちの志、それらを繋げる橋渡し役、どれが欠けても成り立ちません。それぞれが果たすべき役割をしっかりと認識し、今後も本事業の更なる理解と発展に協心戮力していかなければならないと改めて感じました。

最後になりましたが、本事業にご尽力いただいたすべての皆様にこの場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

同郷の心を感じた訪問

毛利 奈々子

成田空港からカリフォルニア州へ向かう機内の中で、広大なアメリカの大地を想像し、胸が高鳴ると共に、海外派遣団の一員として課せられた役割とは何かを改めて脳裏にめぐらせていた。12名の学生団員は、新しい世界に一步を踏み出す高揚感に包まれているようだった。

降り立ったカリフォルニアの地では、まぶしい日差しが我々を歓待してくれているように感じた。まず訪れた全米日系人博物館。日本からアメリカへ渡った人々について、非常に貴重な資料とともに詳細を説明していただいた。事前研修で少なからず知識は得ていたものの、その地で実際に目にするものは、臨場感あふれ、心身に迫り移民への理解がより一層深まった。また、何より興味深かったのは、その展示を熱心に見入っているのが我々だけでなく、現地の方らしいご夫婦や子どもたちであったこと。日本人が移り住んだそのいきさつや歴史を、明らかに日本人でない人々が理解を深めようと真剣な眼差しを向けている姿に感嘆すると同時に異文化理解とは、知ろうとする心なのではないのかと感じた。

ロサンゼルス市を後にし、向かったのは愛知県人会の方が待っていて下さるサクラメント市。優しく温かい笑顔で私たちを迎えて下さり、緊張気味だった心を癒していただいた。その夜、山内前会長宅にご招待いただき夕食を共にさせていただきました。炊き立てのご飯や豆腐、蕎麦を使ったおかずなど、心づくしの品々が食卓を彩っていた。部屋には、日本画も飾られており、そこに英語が飛び交っていなければ日本だと錯覚するほどだった。我々を迎え入れて下さる方々は、ほとんどがアメリカで生まれ育った日系の方々であるが、日本の文化をととても大切に尊んでいらっしゃる。別の日には、ガーデンを見せていただいた。大葉、ネギ、日本の茄子やミニトマトのアイコなどたわわに実るそれらの野菜が丹念に育てられていた。「私の自慢の作品たち」とおっしゃっていた姿にも、日本を愛する心が溢れていた。

今回の訪問では、これまで知り得なかった「異国に住む日本人の心」や「先人が日本から異国に移り住んだ日系の方々の心」を身を持って感じる事ができた。往時の機内で脳裏をめぐっていた役割は、復時の機内ではっきりと見えた。国際交流、異文化理解とは、何よりも心なのではないか。そのために、私たちはまず自分自身について、郷土について学ばなければならないし、知らないことを知る努力をしなければならない。そしてそのことを広く伝えていくことが私に課せられた役割ではないかと考えている。

サクラメント愛知県人会の皆様はじめ、本当に多くの方々の支えがあり、こうした貴重な経験をさせていただきましたこと、この場をお借りして感謝申し上げます。

ありがとうございました。

ふり返って

奥田 拓

「I remember your face!」 sacrament に到着後、移動中の車内で Frank さんにそう声をかけていただき、うれしさがこみ上げた。

初めて sacrament を訪れ、県人会の皆さんと出会ったのが2年前。私のことを覚えているだろうか、前回同様に受け入れてもらえるだろうかといった不安は、県人会の皆さんの笑顔でのお出迎えと温かいおもてなしのおかげでどこかへ消え、さらにこの町と人との距離が近づき、愛着を感じるようになっていた。少し大げさかもしれないが、人との出会い、つながりは、物理的な距離や国、言語を越えることを実感した。

参加する学生12名の一人ひとりが、より多くのことを見て・聞いて・感じて、より主体的に行動できるように、そのきっかけをできる限り作ってあげられるように、そして、少しでも彼らの成長につなげられるようにするために、私に何ができるかを常に考えていた。彼らと共有できるわずかな時間の中で、何をどう伝え、何を投げかけ考えてもらうべきか、その都度頭を悩ませた。

そんな私の思いを知ってか知らずか、彼らは、随所で輝く姿を見せてくれた。好奇心を持って積極的にガイドに質問する姿、緊張しつつもステージの上で全力で表現する姿、人の温かさに触れ、涙を流しながら感謝の気持ちを伝える姿など、気づけば、こうした彼らの姿に、私がたくさんの感動をもらっていた。

私が学生達のためにどれだけ力になれたのかは分からないし、そんなことは大したことはない。ただ、この事業に参加した、学生も引率者の我々も皆が、普段とは違った環境の中で、年齢や立場関係なくそれぞれが刺激し合いながら、色々なことを学び、感じ、かけがえのない時間を過ごすことができたのは間違いない。

この事業は、平成15年に旧佐織町において国際交流事業として第1回が実施されて以降、少しずつ変化をしながらも、今回で10回目の実施を終えようとしている。参加者は、合計150人を数える。その一人ひとりが参加により得た経験を糧に、さまざまなところで活躍されていることだろう。

郷土の歴史と多くの方々の努力と協力の上に成り立ち、受け継がれてきたこの事業を、より良いものとして継続していけるよう、携わった者の一人として今後も力になりたいと思う。取り巻く現状から、いくつか課題はあるが、目的をしっかりと整理し、新たな視点も取り入れながら今後の事業展開を検討していく必要がある。

最後に、今回の事業実施にあたりお世話になったすべての方に感謝申し上げます。
ありがとうございました。